

ウラクロシジミ *Iratsume orsedice* (Butler)

【選定理由】

かつては定光寺から設楽郡まで広く分布しており、マンサクの枝に多数の卵を確認することができ、豊田市内でも生息していた。近年産地や個体数が急激に減少している。愛知県のみドリシジミ類は鈴木・中野（1988）に良くまとめられている。その後のマンサクの減少で各地において減少している。

【形態】

開張 30mm 前後。裏面の色彩斑紋は雌雄で差がない。表面は♂は銀白色、♀は外縁部が広く黒色。色彩斑紋は近似の種はまったくなく、同定は容易である。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張から東三河に広く分布。豊田市（旧稲武町、藤岡町など）、設楽町、瀬戸市（定光寺）、春日井市などに広く分布する。

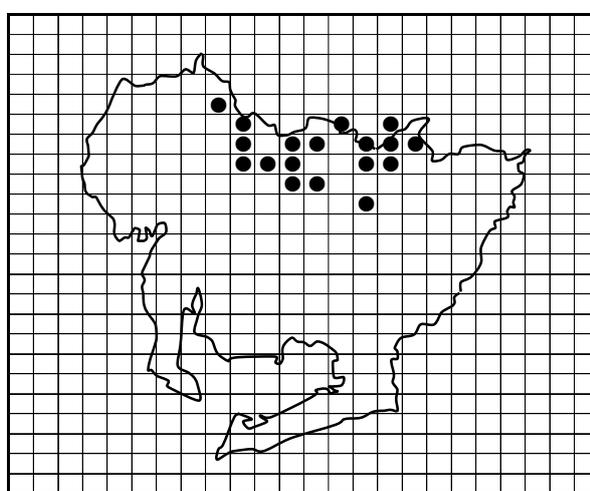
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。分布は局所的。

【世界の分布】

日本、台湾、中国西部。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

分布は食草のマンサクの分布とほぼ一致する。愛知県では山地の溪谷に沿った落葉広葉樹林から丘陵地の低山地まで生息している。本種は年 1 回の発生。定光寺などの丘陵では 5 月下旬から発生し、山間部では 7 月中旬に発生する。越冬態は卵。

【現在の生息状況／減少の要因】

日本のほかの産地では局所的であるが、本県では県内に広く分布していてみドリシジミ類の中では普通に見られた。春日井市の築水の森では、越冬卵や成虫が確認できたが、2017 年以降確認できなかった。豊田市旭町一色地区は樹木の繁茂のため昨今、環境の悪化、特に食草のマンサクの減少により、個体数が極端に減少している（高橋・内海，未発表）。

【保全上の留意点】

本種はマンサクに依存しているので、県下のマンサクの保全が不可欠である。

【引用文献】

鈴木哲彦・中野善敏, 1988. ウラクロシジミ. 愛知県のみドリシジミ類. 佳香蝶, 40(150): 5.

【関連文献】

高橋匡司ほか, 2001. 旭町のチョウ類. 旭町の昆虫: 225-226, 251. (財)旭高原自然活用村協会.
白水 隆, 2006. ウラクロシジミ. 日本産蝶類標準図鑑: 106. 学習研究社, 東京.
日本チョウ類保全協会(編), 2019. 日本のチョウ: 131. 誠文堂新光社, 東京.

(2015 年リスト付属資料を一部修正)